

## ピリカ モシリ

アイヌ語は日本語と系統が全く異なり、取っ掛かりが少ないのですが、まず馴染みのある地名から始めましょう。アイヌ語の発音は、日本人にとって難しい音はありません。母音は日本語と同じで5つ。子音の後に母音を伴わない閉音節が存在し、カナ書きする場合はク、ト、フなどと小さい文字で書きます。sやrは前の母音の響きが残って聞こえるのでシ、ラ、ロなどと書きます。子音の清濁の区別はありません。cはチャ行を表します。

### 地名

稚内 ヤムワッカナイ (冷たい水の沢)、小樽 オタオルナイ (砂浜の所の沢)、歌志内 オタウシナイ (砂浜のある沢)、札幌 サツポロペツ (乾いた大きな川)、女満別 メマンペツ (涼しい川)、登別 ヌプルペツ (色が濃い川)、

宗谷 ソヤ (磯岩の岸)、洞爺 トヤ (沼の岸)、厚岸 アッケシト (楡の下の沼)、苫小牧 トマクオマナイ (沼の奥にある川)、真駒内 マクオマナイ (奥にある川)、瀬棚 セタナイ (犬の川)、朱鞠内 スマリナイ (狐の川)、

知床 シルエトク (地の先端)、利尻 リシリ (高い地)、礼文 レフウンシリ (沖にある地)、国後 キナシリ (草の地)、網走 チパシリ (祭壇の地)、豊平 トウイエピラ (崩れた崖)、納沙布 ノツサム (岬の傍)、襟裳 エンルム (先端)、

士別/標津 シペツ (大きな川)、支笏川 (現名千歳川) シコッペツ (大きな窪地の川)、琴似 コッネイ (窪地である所)、色丹 シコタン (大きな村)、積丹 シャクコタン (夏の村)、択捉 エトウオロオフ (鼻の所にあるもの)、

室蘭 モルラン (小さな坂)、藻岩 モイワ (小さな岩山)、恵庭 エエンイワ (頭が尖っている岩山)、天塩 テシオペツ (築の多い川)、白老 シラウオイ (蛇の多い所)、美唄 ピパオイ (沼貝の多い所)、手稲 テイネイ (濡れている所)

新冠 ニカフ (木の皮)、根室 ニムオロ (木の詰まった所)、羅臼 ラウシイ (低処にあるもの)、夕張 ユパロ (温泉の口)、釧路 クシル (通る道)、宇登呂 ウトゥルチクシイ (その間を我等が通る所)、斜里/沙流 サル (葦原)、佐呂間 サルオマペツ (葦原にある川)、屈斜路 クツチャル (喉口)。

旭川 (旧称忠別) チュプペツ (陽の川)、浜中 オタノシケ (砂浜の真中)、砂川 オタウシナイ (砂のある沢)、長沼タンネト (長い沼)、赤平 フレピラ (赤い崖)など、アイヌ語を大和言葉に訳してできた地名も沢山あります。

### 借用語

次に、アイヌ語から日本語に入った言葉が幾つかあります。いずれも動物名です。(カッコ内は別の言い方) トゥナハカイ 馴鹿、ラッコ (アトウイエサマン) 海獺、スサム 柳葉魚、エトウピリカ 花魁鳥、ケマフレケイマフリ。エトウピリカは嘴が美しい、ケマフレは足が赤いという意味です。オットセイについては、アイヌ語でオンネフ (老いた者) と言いますが、これが宋代には中国語に入って膾炙 (唐代音uətnuət、現代北京音wana) となり、その陰莖 (臍) が漢方薬で精力剤として珍重され、膾炙臍の語が既に室町時代の辞書「文明本節用集」にオットセイの読みで収録されているそうです (宋代の南方の外国について記した「諸蕃志」には大食伽力吉國、今のアラビア半島南部のオマーンに産するとありますが、現在は北部太平洋および南極付近にしか生息せず熱帯地方の化石もなく誤伝のようで、語源についても伝えられていません)。コンプ (サシ) 昆布は、日本の文献で8世紀から、中国の文献で3世紀から見られますが、アイヌ語起源説もあり、決着がついていません。

逆に、日本語からアイヌ語に入ったと思われる単語も沢山あります。

イワ 岩山、ユ (セセキ) 温泉、イソ 岩礁、カマ 岩盤、ルー 道、トマリ 港、コンル (ルプ) 氷、メノコ 娘、ポネ 骨、エモ 芋、シッポ 塩、サケ 酒、タンパク 煙草、クスリ 薬、パスイ 箸、トゥキ 盃、プタ 蓋、コソンテ 晴着、ヌイト 縫糸、コンカニ 金、シロカニ 銀、ペコ 牛。

では、簡単な文を読んでみましょう。アイヌ語の語順は日本語とほぼ同じです。be動詞は **ne**(である)。

taanpe ise ne.            toanpe cape ne.

taanpe ainu ne.        toanpe kamuy ne.

taanpe/tanpe これ、toanpe あれ、ise 犬、cape 猫、ainu 人間、kamuy 神。

**形容詞**はそのままで述語になります。文末に終助詞 **wa**(ですよ) を付けると表現が柔らかくなります。また、終助詞 **na**(だぞ、だよ) は念を押すニュアンスを付け加えます。

taan ise poro.            toan cape pon wa.

tanto sirpirka.        esir sirwen na.

taan/tan この、toan あの、poro 大きい、pon 小さい、tanto 今日、esir 朝、sirpirka 天気が良い、sirwen 天気が悪い。

**単純疑問**は、文末に **ya**(か) を付けます。ya の代わりに **ruwe** を付けると、少し丁寧な言い方になります(その応答には **ruwe un** を使います)。

taan ise poro ya?        toanpe cape ne ya?

tanto sirpirka ya?    toanpe kamuy ne ruwe?

**疑問詞** hunna 誰、hemanta/nep 何、inan どの、mak an どんな、mak pak いくら、henpak いくつ、henpara いつ、hunak どこ、neun どんなに、makanak どのように、hemanta kusu なぜ、

**否定**は、動詞の前に **somo** を置きます。強調のためその前に副助詞 **ka**(も) を置くこともよくあります。

kimpe haw somo ne? (熊の声ではないか)

toanpe cape ka somo ne, isepo ne wa. (あれは犬ではない、兎だよ)

taanpe isepo ka somo ne, cironnup ne na.            huraha ka somo wen keraha ka somo wen.

kimpe 熊、haw 声、isepo/isopo 兎、cironnup/sumari 狐、hura (ha) 匂い、kera (ha) 味、wen 悪い

**存在動詞**は **an**(ある、いる) です。否定は **isam**(ない)。場所の助詞 **ta**(に)

taanta poro cikap an.            toanta pon cep an.

panata inne maciya an.        kotan noski ta poro cise an.

tanukuran cup nipek isam.    ne turesi pak pirka menoko isam. (その妹ほど美しい娘はいない)

cikap 鳥、cep 魚、taanta ここに、toanta あそこに、

pana 川下、maciya 町、kotan 村、cise 家、inne 人口の多い、noski ta 真中に、

cup nipek 月の光、turesi 妹、ne その、pirka 美しい、tamukuran 今夜、pak ほど、

**所有格** 被所有物が所属形を持つ場合はそれを使います。所有者が人や動物で所有物が譲渡可能な物の場合は **kor**(持つ) を使います。それ以外の場合は、二つの名詞をただ並べます。

huci upsoroq おばあさんの懐    toan hekaci tekehe あの少年の手            ekasi sikihi おじいさんの目

awunkur kor seta 隣人の犬    unarpe kor saranip おばさんのバッグ    tusunike kor ninum リスの胡桃の実

cup nipek 月の光    noya ham 蓬の葉    kunaw nonno 福寿草の花    sisam itak 日本の言葉

**所属形**とは、身体部分や親族名(いわゆる譲渡不能な名詞)の一部などで、何かの所属物であることを表すとき、接尾辞の付いた形になるものを言います(接尾辞のない形は**概念形**と言われます)。短形と長形があり、長形は **ihi**、**ehe** など母音の間に **h** のある形、短形はそれから **hi**、**he** などを除いたもので、意味の違いはありません。概念形が母音で終わるものは、短形が概念形と同じになります。

子	po	poho	孫	mitpo	mitpoho	弟	ak	aki	akihi	妻	mat	maci	macihi	夫	hok	hoku	
姉	sa	saha	兄	yupi	yupih	妹	matak	mataki	仲間	utar	utari						
頭	pake	pake	名前	re	rehe	目	sik	siki	sikihi	顔	nan	nanu	nanuhu				
鼻	etu	etuhu				手	tek	teke	tekehe	足	cikir	cikiri	cikirihi				
家	cise	cisehe				村	kotan	kotani	音	hum	humi	衣服	mip	mipi			

**自動詞**は主語＋動詞の順、主格で格助詞は不要です。なお、動詞自体には時制の別はありません。

ekasi apkasi.                      huci suke.  
 numan poronno apto as.        ukuran ponno rera as.  
 cep pesos tum peka oyupu.    cikap nis or peka hopuni.

apto 雨、rera 風、apkasi 歩く、suke 料理する、as 降る/吹く、oyupu 泳ぐ、hopuni 飛ぶ、

numan 昨日、ukuran 昨晚、poronno 大いに、ponno 少し、pesos tum peka 水の中で、nis or peka 空を、peka (一点ではなく広い範囲)

主題を表すには、副助詞 **anak/anakne** (は) を使います。

ainu itak anak isayka itak ne wa.  
 tane anakne nea tokey somo moy moyke. (今はあの時計は動かない)

itak 言語、isayka 容易な、tane 今、すぐ、nea あの、例の、tokey 時計、moy moyke 動く、somo しない

**他動詞**は主語＋目的語＋動詞の順、目的格も格助詞は要りません。目的語を二つとる、または目的語と補語をとる、三項動詞もあります。

paskur kimi e.                      cikappo siamam e.  
 onne huci noya ham uk.        hekaci sito poronno e  
 unarpe acapo kik.                cironnup isepo koyki.  
 cikoykip cise omare.            hekaci utar aynu itak nure yakun pirka wa. (少年たちにアイヌ語を教えるとよい)

paskur 鴉、cikappo 小鳥、kimi 黍/玉蜀黍、siamam 米、稲、noya 蓬、ham 葉、hekaci 少年、utar 仲間/達、  
 sito 団子、unarpe おばさん、acapo おじさん、itak 言葉、cikoykip 獲物、onne 年老いた、e 食べる、uk 採る、  
 kik 殴る、koyki 捕える、omare 入る、nure 聞かせる/教える、yakun するなら、pirka 良い (yakun pirka するとよい)、

**否定**は動詞の後に ka somo ki を付けます。somo が否定詞で、ka は副助詞 “も”、ki は “する” という意味。(動詞の前に somo だけを置く言い方もあります)

tanto somo ku=sinki.            hapo somo iruska.  
 ekasi apkasi ka somo ki.        tanto anakne apto as ka somo ki.

tanto 今日、sinki 疲れる (ku=sinki 私は疲れている)、iruska 怒る、

**過去/完了**を表すには助動詞 a (した) を動詞の後に付けます。複数は rok です。(元の意味は「座る」)

pirkano ci=kar a wa.              apto as a korka sirmeman ka somo ki. (雨が降ったけれども涼しくもない)  
 hine ora a a uske ta suy arpa hine mono a. (そして [奥様は] 坐っていたところに、また戻って行って、坐りました)  
 hoski tas ci=nu rok pe! (おれが先に聞いたんだ)

uske 場所、sirmeman 涼しい、kar 作る (ci=kar 私達は作る)、arpa 行く、a 坐る、i=respa 育てる、pirkano 上手に/うまく、mono 静かに、hoski 真っ先に、korka けれども、hine ora そして、hine そして、suy 再び、tas こそ、

動詞や動詞句はそのままの形で名詞を修飾します。言い換えれば、**連体形**は終止形と同じです。所有を表す **kor** も連体形です。

huci ye a itak sunke ka somo ne.                      oca sekor a=ye usey ku=ku wa.                      ku=kor cip

itak 言葉、sunke 嘘、oca 茶、usey お湯、cip 舟、a= 人々が、ye 言う、a した、ku=/k= 私が、ku 飲む、kor 持つ、sekor と(言う)

**形式名詞** kur 人、uske 所、p/pe もの/こと/奴、hi 場所/時間、hike 方/側 は、独立には使用されず連体形を受けます。

mukawa un kur ka somo ku=ne.                      mun um ta cise ka ape ka isam uske ta (草の中に家も火もないところに)  
k=eunkeray yakka onuytasa ku=kore p ka isam. (私は水をもらっても、代わりに上げるものがない)

mukawa 鶴川、mun 草、ape 火、eunkeray もらう、un に住む、isam ない、yakka しても、onuytasa 代わりに、

**命令**は動詞をそのまま使います。**禁止**は動詞の前に iteki(するな)を付けます。複数人に対する命令・禁止では動詞の後に yan を付けます。動詞に複数形がある場合はそれを使用します。この yan の付いた形は丁寧な表現(してください)としても使われます。命令語調を和らげるには hani(してね)を付けます。

pon menoko, hokure kira.                      hokure arpa wa nukar wa ek

enkota opuni.                      opittano enkota opunpa yan.

apunno oka yan! (さようならー去る側)                     apunno paye yan! (さようならー残る側)

iteki ukoyki yan.                      iteki opitta e no ponnno anu.

hoyup hani.                      iteki cis no mokor hani.

pon menoko 少女、kira 逃げる、arpa 行く、nukar 見る、ek 来る (nukar wa ek 見てくる)、opuni/opunpa 起きる、oka ある、paye 行く、e 食べる、ukoyki 喧嘩する、anu 置く/残す、hoyup 走る、cis 泣く、mokor 眠る、wa ~して、hokure 急いで、opittano みんな、opitta 全部、enkota 早く、apunno 静かに/無事に、itek … no せずに、

**自動詞の複数形** 単数形と複数形で異なる形を持つものがあります。

an-oka ある、ek-arki 来る、arpa-paye 行く、a-rok 坐る、as-roski 立つ

san-sap 下だる/出る、ran-rap 下りる/落ちる、rikin-rikip 上る、ahun-ahup 入る、

soyne-soyenpa 出る、hosipi-hosippa 帰る、hoyup-hoyuppa 走る、hopuni-hopunpa 起き上がる

**人称代名詞の所有格** 修飾される後ろの名詞に所属形があればそれを使い、所属形がない場合は =kor (持つ) で表します。代名詞の接辞は名詞と一体になるので、つなぎ目に = を入れます。三人称の接辞はないので、kor を使う形はありません。また所属形の前に所有者を示す語がなければ、その所有者は三人称の人ということになります。

“私の” ku=kor、“お前の” e=kor。

ku=kor hapo                      e=kor huci                      toan cise e=kor cise ne ya?

ku=yupih*i*                      e=onaha                      ku=tekehe ka yam, ku=cikirihi ka yam.

e=rehe makanak an? (あなたのお名前は?)                      Ekoriaci sekor ku=rehe an. (エコリアチと言います)

hapo 母/父、cise 家、yupi(hi) 兄、ona(ha) 父、tek(e/ehe) 手、cikir(i/ihi) 獣の足、re(he) 名前、makanak どのように、yam 冷たい、ka も、sekor と(言う)、

“私達の” ci=kor、 “お前達の” eci=kor。

ci=kor itak eci=kor ekasi

ci=netopake eci=kotanuhu

itak 言葉、netopa (kehe) 身体、konan (uhu) 村、

poniwne matnepoho 彼の年下の娘 ehotke p 彼の敷布団(彼がそこで寝るもの) k=ehotke p 私の敷布団  
matnepo(ho) 娘、poniwne 年下の、hotke (e そこで)寝る、p/pe もの (ku=は母音の前でk=になることがあります)

## 動詞の人称変化

主語が人称代名詞の場合は、動詞の前/後に人称接頭/接尾辞が付きます。三人称は接辞なしです。

hapo tura ku=ek wa. nitay tum ta kimunkamuy ku=nukar. (森の中で私は熊に会った)

wakka ci=ku rusuy. ciray ci=peraykar kusu pet samta paye=as. (イトウを釣るために私達は川辺に行く)

huci ki kamuyyukar ci=nu rusuy kusu paye=as. (私達は祖母の神謡を聞きに行く)

wakka e=ku rusuy ya.

pet samta eci=paye ya. inan kamuyyukar eci=eramas? (君達はどの神謡が好きか)

taan hekaci anak sunke ka somo ki. arorkisne ukopinupinu kor oka na. (彼らは\*内緒話をしているよ)

\*この文は主語が明示されていませんが。oka が自動詞 an の複数形なので (uko=は “互いに”) 三人称複数であることがわかります。

nitay 森、kimunkamuy 熊、ciray イトウ、pet 沢、kamuyyukar 神謡、inan どの、ek 来る、nukar 見る/会う、  
peraykar 釣る、paye 行く、ku 飲む、ki する、nu 聞く、eramus 好む、sunke 嘘をつく、ukopinupinu ひそひそ話をする、  
rusuy したい、arorkisne こっそり、tura と一緒に、tum ta 中で、samta の傍、kusu ので/ために、

アイヌ語では一人称複数に聞き手を含む包括形(私達)と相手を含まない除外形(私共)の区別があります。自動詞の一人称複数除外形(私共)では動詞の後に接尾辞 =as を付けます。他動詞では接頭辞 ci= を付けます。

一人称複数包括形(私達)は下記の不定人称で表され、自動詞では接尾辞 =an を付けます。他動詞では接頭辞 a= を付けます。

tanepo unukar=an. (はじめまして) cep a=koyki kusu paye=an ro. (魚を捕まえに行こう)

ohaw a=e wa tonoto a=ku. (私達はお粥を食べ、お酒を飲んだ)

ohaw 粥、tonoto 酒、cep 魚、unukar 会う/顔を合わせる (u 互いに)、e 食べる、ku 飲む、koyki 捕える、ro しよう、  
tanepo 初めて、kusu ために/ので、

不定人称というものがあり、文脈に応じて、一般人称、一人称複数包括形、敬意の二人称複数、引用文(叙事詩)中の自称(一人称)などを表します。四人称とも呼ばれています。どれを表すかは文脈によります。自動詞には =an、他動詞には a= が付きます。単複の区別はありません。一般人称の例を挙げます。

tan cep anakne a=ma wa a=e p ne. mata an kor iramante=an. (冬になると [人は] 狩りをする)

mata 冬、ma 焼く、iramante 狩りをする、wa ~して、kor ~すると (an kor であると、になると)、

不定人称は、他動詞では受身の意味も表します。動作主は oro wa を使って表します。

a=en=tak. pirka hawe a=nu. (きれいな声が聞こえる)

nispa utar oro wa a=en=tak. kamuy oro wa yuk a=rayke. (熊によって鹿が殺された)

hawe 声、kamuy 熊/神、yuk 鹿、nispa 旦那、utar 達/人々、tak 招待する、nu 聞く、rayke 殺す、  
oro wa から/によって、en= 私を、

目的語が人称代名詞の場合も、動詞の前に接頭辞が付きます。主語の場合と違うのは、一人称単数 en=、一人称複数除外形 un=、一人称複数包括形と不定人称 i= です。

wakka en=kore yan. (私に水をください) nep ne yakka en=kopisi. (何でも私に尋ねなさい)

cisekorkamuy un=epunkine yan. (家神様、私どもをお守りください)

huci i=omap. (お祖母さんは私達を可愛いがってくれる)

wakka 水、cisekorkamuy 家の守り神、kore 与える、kopisi 尋ねる、epunkine 守る、omap 可愛がる、nep 何、nep ne yakka 何でも、

主語と目的語がどちらも人称接辞で表されることがあります。どちらも接頭辞の場合は、最初のが主語です。

yak easir a=eci=payere na. icen poronno a=e=kore kusu ne na. (お金を沢山あなたに上げますよ)

tan poro kamuycep e=kore=as. tan keraan topenpe e=kore=as na. (この美味しいお菓子をあなたにあげるよ)

icen お金、topenpe 菓子、keraan 美味しい、payere 通す、yak easir そうして始めて、kusu ne 未来形、

主語と目的語接辞が同じである二人称単数 e= と二人称複数除外形 eci= の場合は、どちらにもとれて文脈によって判断しなければならないことがあります。(日高方言では eci= がさらに“私/私達がお前/お前達に”の意味にもなります)

unarpe topenpe e=kore. (おばさんがお前に/お前がおばさんに お菓子を与える)

teeta oruspe eci=nure. (お前達が彼 [ら]に/彼 [ら]がお前達に この話を聞かせた) 三人称は表示なし

topenpe 菓子、oruspe 話/噂、teeta 昔、kore 与える、nure 聞かせる、

**他動詞の複数形** 他動詞では目的語が複数の場合に複数形をとるものがあります。動作を複数回行うということです。

rayke-ronnu 殺す、yanke-yapte 陸に上げる、uk-uyna 取る

tuye-tuypa 切る、kaye-kaypa 折る、suye-suypa ゆする、yasa-yaspa 裂く、mesu-mespa 剥ぎ取る、

kam ku=mesu wa k=e. kam ku=mespa kor k=e. (私は肉を何度も剥ぎ取って食べた)

assap ku=kaye. kaykuma ku=kaypa. (私は薪を何本も折った)

kam 肉、assap 櫛、kaykuma 薪、

動詞の連用形も終止形と同じです。そのままの形でその後に助動詞が続くことができます。

**助動詞** 動詞の後に置きます。助動詞は人称変化せず、人称接辞は動詞に付きます。真の助動詞ではなく品詞上は動詞である場合は人称変化します。

**rusuy** したい、ほしい

nam wakka ku=ku rusuy. (冷たい水を飲みたい) ku=mokor rusuy. (眠りたい)

nep a=e rusuy ka somo ki nep a=kor rusuy ka somo ki. (何も食べたくない、何も要らない)

wakka 水、ku 飲む、mokor 眠る、e 食べる、kor 持つ、nep 何、

**nankor** であろう

na eci=mokor rusuy nankor. nisatta, apto somo as nankor.

ekasi ka huci ka e=kopuntek nankor. e=saha ipe rusuy kor ek nankor na.

apto 雨、sa (ha) 姉、mokor 眠る、kopuntek 歓迎する、ek (帰って)来る、na まだ/もっと、nisatta 明日、

**ro** しよう (文法上は終助詞)

heta, paye=an ro. (さあ、行こう) kunneywa ipe a=kar wa ipe=an ro. (朝ご飯を作って食べよう)

kunneywa 朝、ipe 食事、食べる、kar 作る、heta さあ、  
**etoranne** したくない、する気がしない  
ku=hopuni **etoranne**. (起きたくない)  
ipe ka a=**etoranne**, hotke=an wa patek an=an. (食事もしようとせずに寝てばかりいる)  
hopuni 起きる、ipe 食事をする、hotke 寝る、patke ばかり/だけ (patek an してばかりいる)  
**yak pirka** するとよい **yakka pirka** してもいい/でもよい  
ku=kor hekattar ku=sikore yakun ora k=onne **yakka pirka**. (子供達を一人前にしてからなら私は死んでもいい)  
cise soy pakno arki utar anakne a=ahun-ke **yak pirka** wa. (家の外まで来た人たちは入れてもよい)  
ne wenkur okkaypo eun anakne iteki arpa=an **yak pirka**. (あの貧乏な若者の所へは、決して行ってはいけないぞ)  
**easirki** しなければならない、するしかない  
kampi ku=nuye **easirki**. (私は手紙を書かなければならない)  
e=onaha oro pakno e=arpa **easirki** p ne na. (お父様のところにあなたは行かなければならないのですよ)  
**easkay**(うまく)できる **eaykap**(うまく)できない  
ku=ma easkay. (私は上手に泳げる) ku=ma eaykap. (私は泳げない)  
seta un=pa kusu kotan oren osippa=as **easkay**. (犬が私達を見つけたので、無事に村に戻ることができた)  
aynu itak ku=ye ka **eaykap**. (私はアイヌ語を話せもしない)  
**amkir** したことがある **eramiskari** したことがない  
kimun-kamuy e=**amkir** he? (熊を見たことがありますか) ku=**nukar ka eramiskari**. (見たこともありません)  
peneemo e=e **amkir** ya? (ペネイモ食べたことある?) k=**e ka eramiskari**. (食べたこともない)  
akanto otta torasanpe eci=utari nukar **amkir**? (あなた達は、阿寒湖でマリモを見たことがありますか)  
**kusu ne** するつもりだ  
tane k=arpa **kusu ne**. (今すぐ行くつもりだ) nep e=**kar kusu ne ya?** (何を作るつもりなの)  
akanto otta eci=tura wa paye=an **kusu ne na**. (私達は阿寒湖にあなた達を連れて行くつもりだよ)  
tanto anak taan kur oren ku=yayunaske **kusu ne na**. (今日こそは私はあの人に謝るつもりですよ)  
tura 連れる、yayunaske 謝る、

## 接続助詞

**wa** して

ku=hoyupu **wa** ku=poppetaasin. acapo ek **wa** icen en=kore.  
acapo 叔父さん、icen お金、hoyupu 走る、poppetaasin 汗をかく、ek 来る、kore 与える、  
**hine** してから  
ku=iruska **hine** ku=cis **hine** ku=mina (私は怒って、そして泣いて、それから笑った)  
ku=oriktaa **hine** ku=itak **hine** ku=hosip (私は座って、話して、それから帰った)  
**kor** しながら/すると(いつも)/すれば  
radio ku=nu **kor** ku=suke. (私はラジオを聞きながら料理をした)  
ku=yaykoytak **kor** k=arkas. (私は独り言を言いながら歩いた)  
mata an **kor** upas as. (冬になると雪が降る)  
mata 冬、upas 雪、yaykoytak 独り言を言う、

**kane** して、しながら

pon seta a=tura **kane** ekimne=an. (小犬を連れて山に行った)

u=rims **kane** ku=sinotcaki. (私は踊りながら歌った)

**ciki** したら

nisatta an **ciki** hosippa yan. (明日になったら帰ってきてください)

apto as **ciki** rayoci hetuk. (雨が降ったら虹が出る)

ku=mokor **ciki** cinita ku=nukar. (私は眠ったらうなされる夢を見る)

**yak/yakne/yakun** すれば/すると

munin **yak** ikaras na hokure e yan! (腐ったらもったいないから早く食べなさい)

arikikino a=kar somo ki **yak** orounpe isam na. (一生懸命しなければ何にもならないよ)

e=cis **yakne** okokko cikap e=kotokpatokpa (あなたが泣くと化物鳥があなたをツンツンつつく)

toanta cikappo an, te wa k=an wa k=ak **yakne** ku=cotca. (あそこに小鳥がいる、私がここにいる撃てば当たる)

e=ek **yakun** ku=ye kusu ne. (お前が来たら言うつもりだ)

**yakka** しても/でも/けれども

nep **yakka** pirka. (何でもよい)

pon pe ne **yakka** kiror kor. (小さいものでも力を持っている)

apto as **yakka** upas as **yakka**, sonno k=ek kus ne wa (雨が降っても雪が降っても、私は本当に来ますよ)

a=e=tere **yakka** wen. (私達はあなたを待っていたけれども駄目だった)

**ayne** してついに、しているうちに

kamuykarus ku=hunara **ayne** ku=pa. (松茸を探していて、やっと見つけた)

k=arkas a=k=arkas a **ayne** nea kotan ku=kosirepa. (歩きに歩いて、やっとその村に着いた)

karus ku=hunara **ayne** ku=sitturaynu. (キノコを探しているうちに道に迷った)

kamuykarus 松茸、hunara 探す、pa 見つける、kosirepa 到着する、sitturaynu 道に迷う、

**kusu** ので、するために

apto as **kusu** cise ta ku=an (雨が降っているから、私は家にいる)

ku=sini rusuy **kusu** ku=hotke. (私は休みたかったから横になった)

ku=suke **kusu** kim ta ku=oman wa karus ku= kar (私は、料理をするために、山に行ってキノコを探る)

sini 休む、karus キノコ、hotke 横になる、

**somo** … **no** せずに

a=nu ka **somo** ki **no** a=sikehe a=kor hine ahun=an. (私は聞きもせずに荷物を持って家の中に入った)

**iteki** … **no** せずに(～せよ)

**iteki** cis **no** mokor.

**iteki** nen ka arpa no en=kasuy. (どこへも行かないで手伝ってちょうだい)

cis 泣く、mokor 眠る、

**etok ta** する前に

eci=apkas **etok ta** hokure poronno ipe yan. (あなたたち出かける前に、さあたくさん食べなさい)

**okake ta** した後で

kamuynomi **okake ta** paye=an ro (お祈りした後で行きましょう)

**sekor/kuni** と(言う)

Atuy **sekor** ku=rehe an. (私はアトウイという名前です)

upunpatce cup ne wa kusu curup sekor a=ye. (雪煙の立つ月だからチュルプ [十二月] と言う)

suy ney ta ka sekor ku=ye, saranpaki=an na sekor e=ye, tane pirka k=eraman na.

(またいつかと僕は言った、さよならと君は言った、それでいい 分かっている)

somo e yakun nepki ka eaykap kuni ramu. (彼はそれを食べなければ働くことができないと思った)

**補助動詞** 接続助詞 wa は二つの動詞をつなぐ働きをし「して」の意味を表します。どちらの動詞にも人称接辞が付きます。“してみる” “してやる” “しておく” など日本語と発想が同じですね。

**wa an**(既に)してある

kunaw nonno sipirasa wa an. e=iwanke wa e=an a? ku=iwanke wa ku=an a.

toan kur eun ku=ye wa an kusu pirka na. (あの人に言ってあるから大丈夫だよ)

kunaw nonno 福寿草の花、sipirasa 咲く、iwanke 元気である、a した/したか

**wa inkar** してみる(見る) **wa inu/wa nu** してみる(聞く)

somo eani hem e=san wa e=inkar? (あんたも行ってみない?)

ikor an=kor yakun Tokio ekota paye=an wa inkar=an. (私たちにお金があったら東京に行ってみる)

ku wa inu. (飲んでみる) a=ye wa inu=an kusu ne wa. (私が話をしてみよう)

**wa kore** してやる/してもらう(与える) 複数形は**wa korpare**

e=ek wa un=kore. (来てください) tan orusp e=nu wa en=kore. (この話を聞いてください)

e=osmake ta an itanki uk wa en=kore yan. (あなたの後ろにあるお椀を取ってください)

itanki お椀、osmake 後ろ、ek 来る、uk 取る、

**wa anu/ari** しておく(置く)

heroki tekpiraha ku=kar wa ku=satke wa k=anu. (ニシンの開きを私は作って干しておいた)

e=amihi ø-tanne na tuye wa anu. (お前の爪が伸びているから、切っておけ)

ureneepakke ewopitte wa ari. (両端を結んでおきなさい)

**wa isam** してしまう(無くなる)

pa ani a=ronnu wa isam nankor. (伝染病で殺されてしまうだろう)

**kor an/oka** しつつある、いつもする

hokuhu poki ta cis kor an. ukuran wano arpa wa ikasuy kor an.

e=ek kor e=an. eci=arki kor eci=oka.

tane ku=monrayke kor ku=an ma. (今、私は仕事しているよ)

tanpa aynu itak ku=eyaycakasnu kor ku=an kusu aynu itak kanpi kaske ta ku=nuye na.

(今年、私はアイヌ語を勉強していたので、アイヌ語での手紙を書きましたよ)

hoku(hu) 夫、cis 泣く、ikasuy 手伝いをする、arki 来るpl、oka があるpl、ukuran 昨晚、poki ta 下で/せいで、wano から、

**使役形** 使役は動詞に使役の語尾を付けて使役動詞にして表します。

-re/-te/-ke/-e 動作者(誰に~させるか)を明示する場合

-yar/-ar 動作者を明示しない場合

kera pirka ipe ku=kar kusu e=ipere rusuy na. (美味しい食べ物を作ったので、あなたに食べさせたいな)

hat punkar a=e=tuyere wa karip a=kar. (私はお前にぶどうづるを切らせて輪を作った)  
sirepa wa e=hawe poka nuyar! (やっ来て、あなたの声だけでも [誰かに] 聞いてもらってください)

**形式名詞** ruwe 跡、hawe 声、humi音・感じ・気配、siri 様子・有様、  
いずれも所属形で「名詞化辞」として動詞句で終わる前の節を名詞化しますが、文末にある場合は、疑問その他の終助詞的ニュアンスを与えます。ruwe ne ということだ、hawe ne という話だ、siri ne という様子だ  
ところで、古典日本語でも推量の助動詞“めり”は“見あり”、推量の助動詞“なり”は“音あり”に由来すると言われています。詠嘆の助動詞“けり”も“気あり”から来たものだと面白いのですが、この説はなさそうです。

asir pon cise an ruwe a=nukar kor arpa=an. okkayopo mukawa un kur e=ne ruwe?

makanak a=kar wa a=e kor keraan hawe ka k=eranpewtek.

hemanta e=o wa pekanpe e=kar siri? tanpa anakne sirpopke kusu mus poronno oka siri.

ku=ipe ewen humi ne. (私は食べ物にあたってほしい)

okkayopo 若者、pekanpe 菱の実、mus ハエ、asir 新しい、keraan 美味しい、sirpopke 暖かい、kar 作る、o 乗る、eranpewtek わからない、

#### 終助詞のまとめ

ya か(疑問)、ruwe ですか、ruwe an するの?、ruwe he an するの?、wa ですよ、na だぞ、a だねえ/なあ、nek するぞ、yo だよ、yan しなさい(命令)、hani(しなさい)よ/(するから)ね、ro しよう、so しようかな、

#### 後置副詞 助詞と違って位置名詞を必要としません。

hekote の方へ、okari のまわりを、kari を通って、akkari を越えて、pes に沿って下流に、  
turasi に沿って上流に、akkari よりも、pakno ほど/まで、patek ばかり/だけ、ani を用いて、  
pisno ごとに、turano と共に、koraci のように、

#### 格助詞・副助詞のまとめ

ta(時間的・空間的位置)に/で、peka(広がった範囲)に/で/通って、un/en へ(方向)、wa(場所)から、  
wano(場所・時)から、ekopas にもたれて、epitta の一面中、ekari/okari のまわりを、hekota に面して、  
tomotuye を横切って、wa の側に、ne に(なる)/として、epeka のために、onuytasa に代わって/と交代して、  
anak/anakne は、ka も、hem もまた、ranke ずつ、takup だけ/しか、poka だけでも、hene でも(例示)、  
ne yakka であっても、he か?、kayun の方は(念押し)、kusu こそ、taこそ、tas/tasi こそ、usa...usa も～も、orke  
… orke も～も、otta,,,otta だの～だの、akkari(それ)よりも、ani(それ)で/を用いて、  
turano(それ)と一緒に、sekor(そう)と言う)、pakno(これ)まで/ほど

**位置名詞**と所属形 位置名詞には 次のようなものがあります。短形と長形があり、前に名詞がないときは長形を使います。

or(ke) の所、ka(ske) の上(on)、enka(ske)の上方(over)、kurka(ske)の上面一体(over)、corpok(ke)の下、  
pa の上手、kes の下手、oske の中、tum の中(中実)、onnay(ke)の中(中空)、soy の外、kotcak(ke)の前(静)、osmak(e)  
の後ろ(静)、etok(o)の前(動・時間・空間)、oka(ke)の後(動・時間・空間)、samの傍、

cise an na. onnayke ta ku=sini yakka pirka? sirepa=an yakun, oro ta ku=mokor rusuy.

普通名詞の概念形を **ta** など場所を表す格助詞とつなぐ場合、助詞の前に位置名詞を置かなければなりません。いわば位置名詞+助詞で複合助詞の働きをすればよいと言えます。でも指示代名詞が前にあったり所属形をとっていたり地名などである場合は位置名詞は不要です。たとえば、**kim**(場所としての)山は **kim ta**(山で) と言えますが、**nupuri**(物としての)山は **nupuri or ta** と位置名詞 **or** を介さないといけません。**cise**(家)も同様です。一方、場所としての名詞は修飾を受けることができず **\*poro kim** とは言えませんが、物としての名詞 **nupuri** は **poro nupuri** と言えます。ただし、所属形は位置名詞なしで助詞につなげることができますので、所属形を持つ名詞 **kotan** は位置名詞を介さずに **kotanu ta** と言うことができます。つまり、所属形は、物を場所化する働きもあるわけです。

位置名詞と所属形はアイヌ語の大きな**特徴**の一つです。動詞につく代名詞接辞、一人称複数に聞き手を含むか否かを区別する除外形と包括形の存在（インドネシア語などにもあります）、不定人称（四人称）の存在（アイルランド語にもあります）もその大きな特徴です。このような難しい点もありますが、発音や語順など我々には親しみやすいものです。これを読んで興味を持たれ勉強を始める方がいらっしゃれば幸いです。

アイヌ語の**入門書**としては、白水社の「ニューエクスプレス アイヌ語」があります。またネット上に沢山のテキストや辞書が公開されています。

アイヌ民族文化財団「アイヌ語教材テキスト」 <https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/language/dialect.html>

数十年分のアイヌ語ラジオ講座テキストや数種の方言の各級アイヌ語教材テキストが収載されています。

辞書「アイヌ民族文化財団アイヌ語アーカイブ」 <https://ainugo.nam.go.jp/>

田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』（1996年）、萱野茂著『萱野茂のアイヌ語辞典』（1996）、知里真志保『分類アイヌ語辞典 植物編・動物編』（1953年）がデジタル化して収載されています。

道庁アイヌ政策推進局アイヌ政策課「アイヌ語地名リスト」 [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new\\_timeilist.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/ass/new_timeilist.html)

復習と今後のための予習を兼ねて、主な語彙をまとめておきます。人々の生活が伺えそうです。

ヤ 陸岸、シリ 地 島 峰、ヌブリ 山、アトウイ 海、レブ 沖、ピシ 浜、ペツ 川、ナイ 沢、ペンケ 川上、パンケ 川下、ト 湖、ソ 滝、ニセイ 峡谷、ノットウ 岬、シラル 磯/岩、オタ 砂 砂浜、サル 芦原、ピラ 崖、ニタイ 林、ヌブ 平原、ムントウム 草原、イウォル 狩場、トイ 土 畑、トマリ 港、ルー 道、モシリ 大地/国土、ヤウンモシリ 北海道本島、ポロモシリ 千島列島、サモロモシリ 本州、イ 所、シモン 右、ハルキ 左、テ ここ、

カント 天/空、ニシ 空、チュブ 太陽/月、トカブチュブ 太陽、クンネチュブ 月、ノチウ 星、アフト 雨、ウパシ 雪、レラ 風、クル 雲、ラヨチ 虹、カムイフム 雷、カンナカムイ 雷神、

ワッカ 水、コンル 氷、ニペク 光、イペ/アペ 火、ヌイ 炎、ウナ 灰、フム 音、フラ 匂い、ケラ 味、

パイカル 春、サク 夏、チュク 秋、マタ 冬、パ 年、チュブ 月、ト 日、タント 今日、ニサッタ 明日、ヌマン 昨日、タネ 今、クンネイワ 朝、トカブ 昼、トケシオヌマン 夕方、ウ克蘭 夜、アンノシキ 夜中、スイ 回、アルスイ 一回、

アイヌ 人、クル 人、ウタリ 仲間/達、エカシ 長老 祖父、フチ 祖母 老婆、ハポ 母親、ミチ 父親、マツ 女/妻、オッカヨ 男、イリワク 兄弟姉妹、アク 弟、サポ 姉、マタク/マタパ 妹、ポ 息子、マツネポ 娘、アチャポ おじ、ウナルペ おば、ニシパ 旦那、カッケマツ 奥様、メノコ 娘、オッカイ 若者、ヘカチ 子供、ポンペ 幼児、シネウエクル 客人、ヤウンクル 本島人 (北海道アイヌ)、シサム 和人、フレシサム 露西亜人、レブンクル 外国人、サンタ 山丹 (ウリチ) 人、

パケ 頭、ナン 顔、シク 目、エトウ 鼻、キサラ 耳、パラ 口、パルンペ 舌、イマキ/ニマク 歯、ランヌマ 眉毛、レクチ 喉、テク 手、テッコトロ 掌、アシケペチ 手指、アム 爪、アムニン 腕、チキリ/ケマ 足、ペンラム 胸、ホン 腹、セトウル 背中、イッケウエ 腰、サンペ 心臓、ヨシペ 胃袋、カンカン 腸、ポネ 骨、キル 骨髄、ヌペ 涙、クイ 尿、シ 糞、ケウトウム 心、ハウエ 声、

モシリ 国、チャシ 砦/柵、コタン 村、チセ 家、アパ 戸、セム 物置、プヤラ 窓、イクシペ 柱、アペオイ 囲炉裏、スワツ 炉鉤、アムセツ 寝床、シンタ 揺籃、プ 倉庫、セツ 熊檻、ラッチャコ 灯、スネ 松明 灯、

ペ 物/者、アミブ 着物、アトウシ 樹皮織衣、コソンテ 晴着、テパ 褌、モウル 肌着、パシナ 鉢巻、コンチ 帽子、ワンパッカ 手袋、テクンペ 手甲、ケレ 靴、ピラッカ 下駄、ホシ 脚絆、クワ 杖、キササルンペ 耳環、ニンカリ 首飾り、

イペ 食事、アマム 穀物/ご飯、シアمام 米、エモ 芋、サヨ 粥、シト 団子、オハウ 具汁、ルル 汁、ウセイ お湯、トノト 酒、カム 肉、スム 油脂、ノク 鶏卵、チポロ 魚卵、ラタシケブ 野菜混ぜ煮、

シュー/ス 鍋、イタタニ 俎板、オッチケ 膳、パスイ 箸、イタンキ 椀、トゥキ 盃、ニス 臼、イウタニ 杵、オンタロ 樽、イチェン 金銭、

チブ 舟、ペンチャイ 大船、ヤー 網、イヨッペ 鎌、ムカル 斧、クワ 杖、アイ 矢、クー 弓、オブ 槍、マキリ 小刀、タシロ 山刀、タム 刀、ケム 針、カ 糸/編糸、ヌイト 縫糸、カニ 金属、コンカニ 金、シロカニ 銀、トイタ 畑仕事、トゥペブ 結び目、

イタク 言葉、レ 名前、チャランケ 談判、シノッチャ 歌、イフンケ 子守唄、ウポポ 民謡、ウエペケレ 昔話、ユカラ 叙事詩、リムセ 踊り、トンコリ 五弦琴、ムックリ 口琴、

カムイ 神、イオマンテ 熊送り、イナウ 木幣、ヘペライ 花矢、サパンペ 儀礼冠、エムシ 儀礼刀、イコロ 宝物、ポクナモシリ 冥界、

セタ 犬、チャペ 猫、ペコ 牛、トゥナカイ 馴鹿、ユク 猟獣 鹿、イセポ/イソポ 兎、キムンカムイ 熊、ヘペレ 子熊、ホロケウ 狼、チロンヌブ/シュマリ 狐、モユク 狸、ホイヌ 貂、エサマン 川獺、アトウイエサマン 海獺、オンネブ 膾肭臍、エルムン 鼠、キナスツ 蛇、トッコニ 蝮、テレケイペ 蛙、

チュブ 魚、カムイチェブ 鮭、チポル 筋子、イチャニウ 鱒、エレクシ 鱈、サマンペ 鱈カレイ、スサム シシヤモ、チライ イトウ、スブン ウグイ、ウクリペ 八目鰻、レブンカムイ 鮠、フンペ 鯨、チポロ イクラ、セイ 貝、ピパ 川真珠貝、

アッケテク 帆立、アンパヤヤ 蟹、パキ 海老、アッコロカムイ 蛸、エチンケ 亀、

**チカプ** 鳥、アマメチカッポ 雀、パシクル 鴉、リコチリポ 雲雀、カッコク 郭公、チライマチリ 鴛鴦、オチウチリ 白鶴、チピヤク 大地鳴、エソクソキ 赤げら、アイヌサッチリ 山翡翠、**コタンコロカムイ** 島梟、カパッチリ 鷺、サロルン 鶴、キキル 虫、ヘポラブ 蝶、アペエトウンペ 蛾、ハンクチョッチャ 蜻蛉、ヤキ 蟬、ソヤ 蜂、イトウンナブ 蟻、パッタキ 飛蝗、

**ニ** 木、シュンク 蝦夷松、フブ 榎松、チキサニ 春楡、トウンニ 檜、ランコ 桂、コムニ 柏、スス 柳、ヤム 栗、ネシコ 胡桃、ラスパニ 糊空木、ニペシニ しなの木、キキンニ 七竈、アッニ オヒョウ、トペンニ 板屋楓、イワニ 青だも、シケレペニ きはだ、シケルペ きはだの実、ハム 葉、

ムン 草、**キナ** 草 蒲、**ノンノ** 花、シキナ 蒲、ノヤ 蓬、ハツ 山葡萄、キト/プクサ 行者にんにく、プクサキナ 二輪草、チマキナ 独活、ピットク 大花独活、コルコニ 蔦、マカヨ 蔦の臺、ハシカプ ハスカップ、スルク 鳥兜、トウレブ 大姥百合、アハ 藪豆、マウ 浜梨、ニセウ 団栗、カルシ 茸、サシ 昆布、シンリッ 根、

形容詞には、

**ピリカ** 良い 美しい、**ウエン** 悪い、**カイ** 強い、**フレ** 赤い、シウニン 青い 紫色の、クンネ 黒い、レタル 白い、**ポロ** 大きい 多い、**ポン** 小さい 少ない、モ- 小、**シ** 本当の、フシコ 古い、アシリ 新しい、シリセセク 暑い、ポプケ温かい、シリメマン 涼しい、メアン 寒い (低温)、メライケ 肌寒い (寒気)、ヤム 冷たい、サツ 乾いた、テイネ 濡れた、ユプケ 激しい、アルカ 痛い、シリピリカ 天気が良い、シリウエン 天気が悪い、リ 高い、タンネ 長い、タクネ 短い、ルイエ 太い、アネ 細い、トゥイマ 遠い、ハンケ/エハン 近い、ケラアン 美味しい、フ 生の、イペルスイ 空腹な、キカナイ 元気な、オンネ 老いた、**タアン** この、**ネアン** その、**トオン** あの、**ポロンノ** 多く、**ポンノ** 少し、

シネン 1人、シネフ 1個、トゥフ 2個、レフ 3個、イネフ 4個、アシクネフ 5個、イワンペ 6個、アルワンペ 7個、トゥペサンペ 8個、シネペサンペ 9個、ワンペ 10個、ワニウ 10人、イカシマ 余り、シネフ イカシマ ワンペ 十一、シネアン とある、

動詞には、

**キ** する、**ネ** である、**アン** pl.オカ/ウン ある/いる/住む、**コル** 持つ、**エク** pl.アラキ 来る、**アラパ/オマン** pl.パイエ 行く、**ホシピ** pl.ホシッパ 帰る、ソイエネ pl.ソイエンパ 外に出る、オ 入る、ラン 下る、**モコル** 眠る、**ミナ** 笑う、**チシ** 泣く、イルシカ 怒る/叱る、**アプカシ** 歩く、**ホユフ** pl.ホユッパ 走る、サン pl.サフ 下る、モナア pl.ロク 坐る、**ホフニ** pl.ホフンパ 起き上がる、**アシ** 降る、**アシ** 立つ、

**イペ** 食事する、**エ** 食べる、**エレ** 食べさせる、**イク** 飲酒する、**ク** 飲む、**シノツ** 遊ぶ、**シノツチャキ** 歌う、**リムセ** 踊る、**マ** 泳ぐ/焼く、**モンライケ/ソソパイキ** 仕事する、**イカスイ** 手伝う、**シニ** 休む、**ミ** 着る、

**カル** 作る/する、**エカル** で作る、**スケ** 料理する、**イフライエ** 洗濯する、**フライエ** 洗う、**チャ** 刈る、**トイタ** 畑を耕す、**カル** 採る、**クサ** 舟で渡す、**ケ** 削る、**ヤサ** 裂く、

**コレ** 与える、**ウク** 取る、**ホク** 買う、**ルラ** 運ぶ/見送る、**トゥラ** 連れていく、

**イエ** 言う、**ウウェペケンヌ** 尋ねる、**ウコイタク** 会話する、**スンケ** 嘘をつく、**アムキル** 知っている、**イオイラ** 忘れる、**ホトゥイエカル** 呼ぶ、**イララ** 悪戯する、**ウコイキ** 喧嘩する、**ヤイライケ** 感謝する、**ウヌカル** 会う、**エチウカ** 待つ、**ヌカル** 見る、**ヌ** 聞く、**ヌレ** 聞かせる、

**オマレ** 入れる、**オンカミ** 拝む、**コシキル** 振り向く、**シネウエ** 遊びに行く、**セ** 背負う、**セセッカ** 温める、**タ** 掘る、**ハチレ** 落とす、**マカ** 開ける、**ヤンケ** 陸揚げする、**レス** 育てる、**シピラサ** 咲く、**チ** 熟す、**ル** 溶ける、**エワラ** 吹く、**ミケ** 輝く、**トム** 輝く、

最後に、参議院議員を務められたアイヌ文化復興の牽引者、茅野茂さんの1994年の国会演説を掲げておきます。当時の新聞に対訳部分が掲載され、それを読んで、第二次大戦後に独立し自らの言葉を国語に育てていった多くのアジア・アフリカ諸国と同様に、アイヌ語も近代語として成長できるのだなと感慨を覚えたことを思い出します。

萱野茂 参議院議員 第131回国会 参議院内閣委員会 第7号 平成6年11月24日

<https://kokkai.ndl.go.jp/#/detail?minId=113114889X00719941124&spkNum=46>

きょうはアイヌ新法制定にということでもありますけれども、まず最初に、松本英一先生が亡くなられたその後を受けた私として、一番最初に部落解放基本法制定について特段の御配慮をいただき、一日も早くこの法律が制定されることを心からお願いしたいと思います。

次に、理事会を通して、きょうは北海道からやってきて、せつかくのこの時間でもありますのでアイヌ語でという申し入れをしてあります。短い時間でもありますのでよろしくお願ひしたいと思います。

その前に、アイヌ民族の国土である北海道のことについて、ちょっと地名の上から申し上げておきたいと思います。

今から百三十年ほど昔に三重県三雲町出身の松浦武四郎という方が北海道へ行っております。前後十回ほど行ってアイヌからいろいろと地名を聞きまして、それを書き残してあるのが八千カ所から九千カ所あるというふうに北見市の秋葉稔さんという方がまとめたものがあります。

それで、その地名を私の生まれて育った二風谷のアイヌの村へ持ってきてみますと、武四郎が書き残したと言われる地名がわずか十四カ所、大正十五年生まれの私が二風谷の地名を調査してみますと七十二カ所ありました。ですから、単純な計算で言っても九千カ所の五倍、四万から五万カ所あるということになります。これは推定の部分もありますけれども、現在北海道で使われている地名の九〇%以上はアイヌ語であるということをごまさんに知ってもらいたいと存じます。

次に、アイヌイタクアニ (アイヌ民族の言葉で)ということでもあります。

イタクプリカ ソモネコロカ シサムモシリ モシリソカワ チヌムケ ニシパ チヌムケ カッケマツ ウタペラリワ オカウシケタ	言葉のあやではありませんが、日本の国土、国土の上から選び抜かれてこられた紳士の皆様、淑女の皆様が肩を接しておられる中で、
クニネネワ アイヌイタクアニ クイタクルウェ ネワネヤクン ラモ ツシワノ クヤイライケブ ネルウェタパンナ。	成り行きに従いアイヌ語でしゃべらせてもらえることに心から感謝を申し上げるものであります。
エエパキタ カニアナクネ アイヌモシリ シシリムカ ニフタニコタ ン コアパマカ 萱野茂 クネルウェネ。	私は、アイヌの国 北海道沙流川のほとり 二風谷村に生を受けた萱野茂というアイヌです。
ウツチケクニブ ラカサクペ クネブネクス テエタクルネノ アイヌ イタク クイエエニタンペ ソモネコロカ	意気地のない、至らない者なので昔のアイヌのようにアイヌの言葉を上手には言えないけれど
タナントアナクネ シサムモシルン ニシパウタラ カッケマツウタ ラ アンウシケタ	今日のこの日は、日本国の国会議員の諸先生方がおられる所に
アイヌイタク エネアンペネヒ エネアイエブネヒ チコイコカヌ ク キルスイクス アイヌイタク イタクピリカブ ケウドカンケワ クイ エハウエネ	アイヌ語というものがどのようなものか、お聞きしたいと考え、私はアイヌ語を言っているのです
ポンノネクス チコイコカヌワ ウンコレヤン。	少しですので、お耳を傾けられますようお願い申し上げます。

テエタアナクネ アイヌモシリ モシリソカタ アイヌパテク アンヒ タアナクネ	ずっと昔、アイヌ民族の静かな大地にアイヌ民族だけが暮らしていた時代
ウウェペケレ コラチシンネ ユクネチキ シペネチキ ネブパクノ オカブネクス	アイヌの昔話と全く同じに、シカでもシャケでもたくさんいたので
ネブアエルスイ ネパコンルスイ ソモキノ、アイヌパテク オカブ ネアコロカ	何を食べたいとも、何を欲しいとも思わず、アイヌ民族だけで暮らしていたが
ネウシケウン シサムネマヌブ ウパシホルッケ エカンナユカラ エ クパルウェネ。	そこへ和人という違う民族が、なだれのように移住してきたので す。
インネシサム エクヒオラーノ ユクアウクヒ シペアウクヒ ニアドイェヒ ハットホ チコイカラカラ	大勢の日本人が来てからというもの、シカをとるな、シャケもとる な、木も切るなど一方的に法律なるものを押しつけられ、
オロワノアナクネ アエブカイサム アウフィカクニ チクニカイサ ム アイヌウタラ ケメコッペアナツネ ケメコッパワ オドタヌオド タヌ ライワアラババ。	それからというもの、食べ物もなく薪もなく、アイヌ民族たちは飢 え死にする者は飢え死にをして次から次と死んでいったのでありま す。
シクヌワオカ アイヌウタラカ アイヌイタク エイワンケクニ シサ ムオロワ ハットホアンワ アイヌイタク エイワンケ エアイカブパ ブ ネブネクス	生きていたアイヌたちも、アイヌ語を使うことを日本人に禁じら れ、アイヌ語で話をするができなくなってしまいそうになった
チエワピリカブ アイヌイタク ネアコロカ タネアナクネ ウララ シンネ ラヨチシンネ ウコチャンチャンケペコロ クヤイヌアコロ カ	言っている、使っているアイヌ語であったけれど、現在はかすみの ように、にじのように消えうせるかと思っていたが
タネオカ ペウレアイヌウタラ ヤイシンリツ ヤイモトホ エブリウ エンパワ	現在の若いアイヌが、自分の先祖と自分の文化を見直す機運が盛り 上がってきて
イタクネヤッカ アイヌプリ ネアヤッカ フナラパワ	アイヌ語やアイヌの風習を捜し求め
ウウォポキン ウウォポキン エラムオカイパコロ オカルウェネ。	次から次へ覚えようと、努力しているのです。
ネヒオロタ ニシパウタラ クコラムコロヒ エネオカヒ アイヌモン ルン アイヌウタラカ コエドレンノ シサムモシリタ オカアイヌカ エネネヤッホ アイヌネノ アイヌイタクアニ ウコイタクパワ ラッ チオカ、アプンノオカクニ コサンニヨワ ウンコレヤン	そこで、私が先生方をお願いしたいということは、北海道にいるア イヌたち、それと一緒に、各地にいるアイヌたちがどのようにした らアイヌ民族らしくアイヌ語で会話を交わし、静かに豊かに暮らし ていけるかを先生方に考えてほしいと私は思い、
ヘルクワンノ ネアコロカ アイヌイタククイェ、アイヌイタク エ ネアンクニ チコイコカヌヒ ラモッシワノ クヤイライケナー。	ごく簡単にであったけれども、アイヌ語という違う言葉がどのよう なものかをお聞きいただけたことに、アイヌ民族の一人として心か ら感謝するものであります。

次に、蝦夷地に対する歴史認識についてということで御質問申し上げたいと存じます。

アイヌ語を含め申し上げたことは、私の家系が体験したアイヌの歴史、アイヌの気持ちのほんの一部であります。北海道のアイヌは、今このような歴史を踏まえて新たな共生関係をつくるために、旧土人保護法にかわってアイヌのための新しい法律の制定を求めています。政府は、この法律制定の是非を検討するため関係省庁による検討委員会を発足させ、既に六年目を迎えています。そして政府は、この法律制定の前提として、例えば先住民族であるとか先住権についての定義や概念が国内においても国際的にも確立していないとして法制化を渋っています。

私自身、一人のアイヌの物書きでありアイヌの彫刻師であります。考古学者でも歴史学者でもありませんし、今はやりの形質人類学などはとてもわかりません。また、余り古い話、縄文とか弥生時代の話をしようとしているわけでもありません。日本の社会に近代的な政治体制とか近代的な法律関係ができたころからの話をしたいと思います。

例えば、政府が今も日ロ両国の最大の課題としている北方領土の問題は、安政元年にさかのぼってのことですから百四十年來のことです。日本と韓国、朝鮮のことで言いますと、植民地支配の原点であります日韓併合のときから数えても八十四年前からの話であります。ですから、アイヌモシリと日本の関係もそのほどの話であり、政府として責任のない話とは言えないことであると思っています。日本とロシアのこと、日本と朝鮮のことが未解決の問題であるとするなら、アイヌモシリと日本の関係だけを解決済みとするにはいささか手前みその都合のいい話ではないでしょうか。ですから、政府の皆さんと専門的な議論をするつもりはありませんが、私は長い歴史の中で起きてきた事実についてこの機会にお尋ねし、確認したいと思っています。

これから私が話すことは、私が話すことではなく、平成四年の中学生の社会の教科書に書かれていることでもあります。それは、江戸幕府の時代、朝鮮も鎖国をしていたが家康の時代に国交が回復した。「琉球王国は、十七世紀の初めから薩摩藩に支配されるようになった。しかし、その後も中国とは独立国として貿易をおこない、中国は、琉球王国を属国あつかいにしていた。また、蝦夷地では、アイヌが独自の社会をつくっていた。」と記述されております。

すなわら、ここでは日本の社会から見たとき、アイヌが占有していた当時のアイヌモシリ、蝦夷地ではありますが、これは朝鮮や琉球大  
国と同じように独立した国であるとの認識を明らかにしているのであります。文部省が中学校で教えているこのような歴史認識について、政府も同様の御見解と受けとめてよろしいでしょうか。この点についてお伺いしたいのであります。